

会 議 録

会議名	平成 24 年度第7回小金井市学童保育所運営協議会	
事務局 (担当課)	児童青少年課	
開催日時	平成 24 年11月27日(火) 19時05分～21時05分	
開催場所	801 会議室	
出席者	委員	高橋委員長、中山(岳)副委員長、水谷委員、野中委員、原島委員、齋藤委員、入月委員、山倉委員、曾我委員、深澤委員、小澤委員、仙澤委員、中山(恵)委員、鈴木委員
	事務局	越学童保育係長
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 小金井市学童保育所運営について (2)その他 3 閉会	
配布資料	・「のびゆくこどもプラン 小金井」事業進捗状況評価表	
会議結果	1 会議録の確認 ・第6回の会議録は現在校正中。 2 議題 (1) 「のびゆくこどもプラン 小金井」事業進捗状況評価表について ・学童保育は3項目が対象である。評価は5段階で、Sは「事業目標(値)を達成し、結果が得られた」、Aは「ほぼ事業目標(値)を達成したが、評価Sには至っていない」、Bは「事業目標をある程度達成したが、今後の改善、検討を要する」、Cは「事業目標を達成したとは言えず、大きな課題がある」、Dは「事業自体に着手できていない」である。 ・児童青少年課の評価と理由は、①「学童保育事業」では、時間延長のうち朝の延長については平成23年の夏休みより実施しているが、夜の時間延長、学年延長についてはまだ課題となっているのでBと評価した。 ②「学童障害児保育の充実」については、平成24年度は、希望者全員を受け入れているが、1名のみ第1希望の学童に入所できていない状況も踏まえ、Bとした。受け入れについては今後も拡大していく方向で職員も含めて協議中である。③「学童保育所の整備」については、大規模化していた学童の分割に合わせて建替えを行ってきた。あかね学童の建て替えなどのほか老朽化もあるためBとした。(市) ・明日の推進市民会議で評価する予定である。ご意見があればお伺いした	

い。(市)

- ・市民会議委員として、現状を維持してほしいという期待を込めてS評価と考えている。今後も保育の質の維持を求めたい。(学)
- ・事業の項目内容が大きな内容になっており、評価が難しい。項目をもっと細かく設定するべきではないか。(学)
- ・時間延長が項目にあがっているが、ニーズは本当にあるのか。(学)
- ・指導員の適正配置がどの項目についても関係してくる。分割した学童保育所でも、実際には完全に分割できているわけではないと聞く。(学)
- ・質の維持・向上について、市民会議だけでなく協議会でも評価していくべきではないか。(学)
- ・障がい児の受け入れは大いに賛成だが、障がい児を受け入れることで保育の現場でどんなことが起きているのか、課題を共有し、評価もしていきたい。(学)
- ・市民会議委員のコメントを見るとニーズがよく感じられる。職員も努力はしているが、求められるものは高い。(市)
- ・学年延長や時間延長等は、目標値等の枠組みを決めないと、ニーズは際限なくなり、評価もできないのではないか。今の施設・環境の中で学年延長をするなら、入所希望者全員の入所を実現するのは無理ということか。(学)
- ・時間延長については、質の確保と同時に量の拡充も求められると考える。19時までが一つの目標であろうが、それ以上の希望もあるし、18時の現状で良しとするわけにはいかないと考えている。(市)
- ・学童保育以外の事業の拡充として考えていかないのか。全てのニーズを学童保育所で受け入れるのではなく、他の受け皿があればよいのではないか。(学)
- ・現状では、放課後子ども教室も受け皿となる状況になっていないと考える。今後実施される新システムでの位置づけも、現状ではまだ未定であるが学童保育としてニーズに応える必要がある。(市)
- ・時間延長がないことによって困っているのは子どもなのか親なのか。利用者というと、親を中心に語られているが、子どもも利用者である。学童保育所を卒所した4年生以降の子どもの生活も考え、子どもの生活実態等、子どもの視点も取り入れて検討するべきではないか。(市)
- ・18時以降の保育先として、ファミリーサポートセンターなどを利用している人もいる。そういった保育の情報提供を指導員もしているなら、明記すればよい。(学)
- ・分割になってよかったことやマイナスだったことなど、保育内容についての情報の共有化や評価もするべきではないか。(学)
- ・18時以降は親同士の預かり合いを行っている事例もあり、父母会も一

定の役割を果たしている。父母会も積極的に活動しており、父母会を通してニーズを組み上げることもできるのではないか。(学)

- ・無理心中の悲しい事件があった。4年生以降の延長ということを考える上では、学童保育所にはセーフティーネットとしての役割もあるのではないか。(学)
- ・実際にセーフティーネットとしての役割も担っていると認識している。(市)
- ・障がい児に対応する指導員の配置が課題である。(学)
- ・「のびゆく」は子育て支援全体のプランなので、細かい項目設定や評価をするのは難しいのであろう。このように協議会で検討しているという実績も書けないか。(学)
- ・実施してきたこともたくさんあり、今も努力を続けているという姿勢を理解しているので、協議会委員の評価ではAという意見が多いが、課題が残っているということも事実でありBとせざるを得ない、という意見もある。協議会は意思決定機関ではないので、協議会としての評価(AかBか)を出す必要はない。(学)
- ・人的配置を厚くしていく、利用しやすい施設に整備していく等、高い目標を立ててほしい。(学)
- ・職員も父母も頑張っってよい保育を提供しており、全国的にも注目されているので、もっと情報を発信していければよい。(学)
- ・放課後の児童育成を全て学童保育所で実施するのであれば、いつまでたってもニーズは膨らみ、目標は達成できないのではないか。他の事業も含め、放課後の保育全体について市のプランを考えていって欲しい。(学)

(2) 伝言ダイヤル訓練について

- ・昨年度及び今年度、実施したことはよかった。定着させたいので、今後も継続して実施してほしい。(学)
- ・年に2回実施したらどうか。夏休みになると保育時間が長くなり、学童保育所で過ごす時間も長くなるので、その前に1回、半年後にもう1回実施すれば、年度内での見直しも可能である。年に1回では、父母会役員の交代などでうまく引き継がれていかないケースが心配される。(学)
- ・伝言ダイヤル訓練は、継続して実施していく予定。(市)
- ・伝言ダイヤル訓練、放射線量測定など、ざっくりとした学童保育所の年間計画表を作成できないか。(学)
- ・放射線量測定は現在3ヶ月に1回実施としており、今年度は5、8、11、2月に実施。ホームページに結果を公表しているが市の施設全体に関わるので、市の方針変更があれば、それを反映させることになる。来年度の方針はまだ未定だが、決まった段階で保護者へお知らせする。(市)

(3) ドッジボール大会の日程について

- ・今年度、南小の学校行事と重なってしまったが、なぜ重なってしまったのか。また、今後どのように改善できるか。(学)
- ・ドッジボール大会は児童青少年課主催の行事であり、各学童保育所から学校へ日程をお知らせしているが、今回はうまく機能しなかった。来年度以降は学校行事編成の前に、児童青少年課から教育委員会あて、ドッジボール大会の日程を文書でお知らせしたい。(市)

3 次回日程

- ・平成25年1月24日(木)19時から、802会議室。